

<アスパラガスの栽培ごよみ(春一期どり)>
栽培記録は必ず記帳すること！

時 月	期 旬	作 業	防 除 体 系			
			対象病害虫	薬剤と濃度(収穫前日数と総使用回数)	水100ℓ当り薬剤量	10a当り散布量
2	上	播 種 育苗中防除	茎枯病・斑点病・褐斑病	ダコニール1000 1,000倍 (前日まで4回以内)	100mℓ	150 ℓ
3	中	育苗中防除	茎枯病・立枯病	トップジンM水和剤 1,000倍 (7日前まで5回以内)	100 g	150 ℓ
	下	ほ 場 準 備 雑 草 対 策	一 年 生 雑 草	ラウンドアップマックスロード (耕起前・雑草生育期1回以内)	500mℓ	100 ℓ
4	中	定 植				
5	上	防 除	茎枯病・斑点病 アブラムシ類・ネギアザミウマ	Z ボルドー 500倍	200 g	100 ℓ
	中			ダントツ水溶剤 2,000倍 (前日まで3回以内)	50 g	100 ℓ
	下			ベルクート水和剤 1,000倍 (7日前まで5回以内)	100 g	100 ℓ
6	上	防 除	茎 枯 病	ベンレート水和剤 2,000倍 (前日まで4回以内)	50 g	100 ℓ
	中	防 除	茎枯病・斑点病・褐斑病 ハスモンヨトウ・ネギアザミウマ	ロブラール水和剤 2,000倍 (前日まで5回以内)	50 g	100 ℓ
				プレオフロアブル 1,000倍 (前日まで2回以内)	100mℓ	100 ℓ
7	下	防 除	茎枯病・斑点病・褐斑病	ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 (前日まで3回以内)	33 g	100 ℓ
	上	防 除	茎枯病・斑点病・褐斑病 タバコナジラミ類・アザミウマ類	ダコニール1000 1,000倍 (前日まで4回以内)	100mℓ	200 ℓ
				アベンジャーフロアブル 2,000倍 (前日まで2回以内)	50mℓ	200 ℓ
8	中	防 除	茎枯病・斑点病・褐斑病	ロブラール水和剤 2,000倍 (前日まで5回以内)	50 g	200 ℓ
	下	防 除	茎 枯 病 アザミウマ類・ハスモンヨトウ	ベンレート水和剤 2,000倍 (前日まで4回以内)	50 g	200 ℓ
				ディアナSC 2,500倍 (前日まで2回以内)	40mℓ	200 ℓ
9	上	防 除	茎枯病・斑点病・褐斑病 タバコナジラミ類・アザミウマ類	ダコニール1000 1,000倍 (前日まで4回以内)	100mℓ	300 ℓ
	中	防 除		アベンジャーフロアブル 2,000倍 (前日まで2回以内)	50 g	300 ℓ
	下	防 除		ベルクート水和剤 1,000倍 (7日前まで5回以内)	100 g	300 ℓ
10	上	防 除	茎枯病・斑点病・褐斑病	ダコニール1000 1,000倍 (前日まで4回以内)	100mℓ	300 ℓ
	中		茎枯病・斑点病	Z ボルドー 500倍	200 g	300 ℓ
	下		茎枯病・斑点病	Z ボルドー 500倍	200 g	300 ℓ
11	下	茎葉刈取り		ハスモンヨトウが発生した場合、フェニックス顆粒水和剤を散布する(9～10月)。		
12	上	マルチ除去		茎葉が完全に黄変したら刈取り、ほ場から搬出し、適正に処理する。		

※対象病害虫の欄に { がある農薬は混用事例あり

●…種まき

○…植えつけ

■…収穫

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	品 種 名														
春 一 期 どり	●	●		○	○								ウインデル														
作 業 の 要 点 1. ほ場準備 ・前年秋のうちから排水性のよいほ場を選び、基幹排水溝を掘り、水戸尻までしっかりつないでおく。 2. 育 苗 ・72穴セルトレイに各セル1粒ずつまく。 ・育苗培土の乾き具合を見ながら、かん水を適宜行う。 ・発芽には、播種後、地温25℃で約10日間を要する。 ・発芽後は地温20℃程度とし、日中は約25℃、夜間は約15℃以上になるよう管理する。 ・定植1週間前程度からハウスサイドを開けるなどし、外気温にならす。 3. 耕起・うね立て・マルチング ・耕起する約2週間～1週間前に、雑草対策としてザクサ液剤を散布する。 ・ほ場が乾いた状態で耕起・うね立て・マルチングを1日で行う。 ・マルチ幅165cmのマルチを使用し、うね幅180～200cm、うね高25cm以上のうねを形成する。 4. 標準施肥量 (kg/10a)：うね立て時施用 <table> <tr> <th rowspan="2">肥 料 名</th> <th rowspan="2">総量</th> <th colspan="2">基 肥</th> </tr> <tr> <th>全 層</th> <th>う ね</th> </tr> <tr> <td>苦 土 石 灰</td> <td>150</td> <td>150</td> <td></td> </tr> <tr> <td>そさい3号プレミアム</td> <td>110</td> <td></td> <td>110</td> </tr> </table> 5. 定 植 株間 40cm 1,250本/10aとする。 ・定植は深植え(うね上面から10cm下の位置)(図1)とし、定植後はマルチ焼け防止のため、マルチ穴を土で埋める(写真1)。 ・定植後、雑草対策として、グラメックス水和剤をアスパラガスにかからないよううね間のみに散布する。 6. 倒伏防止 ・いほ竹180cm(但し地上部約150cm)、15cm角5目のフラワーネットを使用し、設置する。 ・生育に合わせて、倒伏防止対策として誘引紐(2、3段目)を設置し、茎葉が倒れ、地面につかないよう誘引する。 7. 養分転流・刈取・マルチ除去 ・平均気温約15℃、最低気温約10℃から養分転流が開始される(約30日間)。 ・茎葉が完全に黄化したタイミング(12月上旬)で、草刈り機等を使用し、地際から茎葉を全て刈り取り、マルチを除去する。 翌春 8. 萌芽前 ・昨年秋に刈り取った株を、再度なるべく地際部まで刈り取る。 ・雑草対策として、ゴーゴーサン乳剤を散布する。うね間に雑草が繁茂している場合は、うね間にブリグロックスL又はザクサ液剤を散布した後、ゴーゴーサン乳剤を散布する。 9. 萌芽後 ・平均気温約5℃から萌芽開始、平均気温約12℃以上になると、揃って萌芽する。 ・福光管内では、4月上旬～6月にかけて収穫となる。 ・萌芽茎が27～30cm程度の長さになったら、地際から刈り取り、収穫する。 ・収穫後は、アスパラガスを束ね、上部と下部を布等で縛り、予冷库へ搬入する。 ・高温期は1日2回の収穫する。 ・1年株養成春一期どり栽培は、収穫後に立茎する必要がないため、萌芽した若茎は全て収穫する。 ・凍霜害や虫害にあった茎、細茎や曲がり茎は速やかに除去する。 ・収穫中の高温乾燥時(晴天が3日以上続く場合等)には、うね間かん水を実施する。 ・収穫終了後は、株の残渣をそのまま放置せず、なるべく早めにトラクターですき込む。 写真1：マルチ焼け対策 ※アベンジャーフロアブル、ブリグロックスLの引渡しには、印鑑が必要。 野菜編 - 114 - - 115 -														肥 料 名	総量	基 肥		全 層	う ね	苦 土 石 灰	150	150		そさい3号プレミアム	110		110
肥 料 名	総量	基 肥																									
		全 層	う ね																								
苦 土 石 灰	150	150																									
そさい3号プレミアム	110		110																								